

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立百合が原小学校

## 1 本年度の重点目標

『主体的に 学び高め合う あったか百合が原 ver.3』

～自分から友達とともに動き出す子どもの姿を求めて～

## 2 本年度の経営方針

- ・組織で育てる（キャリアステージ・チーム百合が原・学年・学級経営）
- ・授業と指導で育てる（学ぶ力・健やかな体・豊かな心）
- ・安心・安全で信頼に応える開かれた学校の創造（保護者とともに・地域とともに）

## 3 自己評価及び自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	<b>1 楽しい学校づくり</b> 学年学級経営を通して、子どもたちの好ましい人間関係や教師と子どもたちとの信頼関係を築くことができたか。	A	ふれあい活動や全員遊びの設定など「あったか百合が原」の実現を目指し、楽しく安心して過ごせる学級・学年・学校づくりに努める。さらに学年協働の意識を高めていく。	A	A
	<b>2 開かれた学校づくり</b> 保護者との連携や地域の活用、CS など、開かれた学校づくりを通して、教育活動の充実を図ってきたか。	A	すぐーなどのデジタルツールを活用したり、ホームページを改善したりしながら、さらに積極的に学校情報を発信していく。また、幼稚園や保育園、中学校、保護者、地域との連携を図る。令和8年度より本格的にコミュニティスクールを始める。	A	A
	<b>3 連携と協働</b> 職員同士共通理解を深め、協働の意識をもって互いに連携して教育活動を進めることができたか。	A	共通理解のもと取り組むことができたことが多かった。引き続き学年研修を大切に、多様な連携の取り方を工夫しながら協働の考えで子どもたちに関わっていく。	A	A
	学校関係者 評価委員会からのご意見	1・2・3の評価項目の通りに教育活動を行ったことにより、円滑な学校経営となり、素直で明るい子どもたちの育ちが見られている。			

学習指導	<b>4 基本的な学習習慣</b> (聞き方・話し方・伝え方・家庭学習)などの学びの基礎を子どもたちに身に付けさせることができたか。	A	指導と評価を繰り返しながら、子どもたちに必要な学びの基礎が身に付くよう働きかけていく。また、主体的に学ぶことができるよう、授業改善に努める。	A	A
	<b>5 習得・活用・探究</b> 知識・技能の習得とともに、これらを活用し思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりに努めてきたか。	A	知識・技能の習得に偏らないバランスを考えた授業づくりをしていく。研究を推進しながら思考力・判断力・表現力を育てるための手だてをさぐる。「学ぶ力育成プログラム」を活用していく。	A	A
	<b>6 ICT活用した授業改善</b> ICTを積極的に活用して効率的かつ効果的な授業を推進していくことができたか。	A	一人一台タブレットを効果的に活用し、学びの進みをそれぞれに見える化していく。また、子どもたちの学びが蓄積していくように、学習状況を保存していく。	A	A
	学校関係者 評価委員会からのご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での様子を見ても、各学年タブレットを効果的に活用している姿が見られ、ICTを活用した授業改善が見られた。</li> <li>・今後、長期休業などでも活用できるといいかと考える。</li> </ul>			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生活指導 生活指導	<b>7 基本的な生活習慣</b> ゆりっこ3つの「あ」（挨拶・歩き方・後始末）を中心に基本的な生活習慣の定着を図り、規律ある学校生活を送らせることができたか。	A	ゆりっこ3つの「あ」を、月目標と対応させ、児童活動にも取り入れながら、家庭にも協力を仰ぎ、定着を目指していく。指導の工夫や粘り強い指導を継続していく。	A	A
	<b>8 豊かな心情</b> 道徳の時間などを通して、豊かな心情や相手を思いやる心、協力する態度を育てることができたか。	A	異学年と仲良くし、他を思いやる場面が見られた。ペア学年同フロアの教室配置をし、活発な交流が見られた。また、今後も「考える」道徳の時間などを通して、豊かな心情を育てていく。	A	A
	<b>9 いじめ対応</b> 道徳の時間などを通して、豊かな心情や相手を思いやる心、協力する態度を育てることができたか。	A	市教委が行う悩みやいじめアンケートに加えて、今年度より1学期末に独自のアンケートを行い、いじめの早期発見及び対応に努めてきた。今後もいじめの芽をつむ目を養っていく。	A	A
	<b>10 学校行事</b> 各学校行事のねらいを子どもたちに意識させたり、子どもたちの育ちを次の活動に生かしたりする指導になっていたか。	A	ねらいを明確にしなが、教科指導を大切にしたりした行事の在り方を工夫し改善することができたので、次年度も継続していくとともに、これからの行事のあり方について発信し、保護者の理解を求めていく。	A	A
	<b>11 安全指導</b> 教室環境の整備や休み時間の安全監視、登下校の安全指導の徹底を図り、子どもの安全意識を高め、安心安全の確保に努めたか。	A	保護者や地域の方々の協力により、子どもたちが安全に安心して過ごすことができた。子どもたちが自分の身を守るができるよう、直下型訓練や引取下校訓練などを取り入れてさらに意識を高めることができた。	A	A
	学校関係者 評価委員からの ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回のいじめアンケートの実施で状況を把握することが良かった。</li> <li>・3つの「あ」の推奨で子どもたちの成長が見られた。</li> <li>・ふれあいペアという意識が子どもたちに根付いていた。</li> <li>・引取訓練の実施は現状を考えると大変良かった。</li> </ul>			

今日的課題	<b>12 体力の向上</b> 健康の増進と体力の向上を図ろうとする態度を育てるため、「健やかな体育成プログラム」に基づいた食育の充実と休み時間の外遊びの奨励などを進めてきたか。	A	全員遊びなど、校庭や体育館で体を動かす機会を確保し、特に外遊びの奨励を行ってきた。さらに冬の中遊びを学年学級部を中心に改善し体力増強に努めることができた。また栄養士の指導による食育を進めてきた。その成果を「健やかな体育成プログラム」に生かし、実行していく。	A	A
	<b>13 環境学習</b> 節電・節水、リサイクルなど、日常から環境に働きかける意欲や態度を育てることができたか。	B	総合的な学習の時間においてSDGsに関する学習を進めたり、委員会の活動などで資源の再利用に関する取組を行ったり、今後も意識の高揚を図る。	A	A
	<b>13 ゆりっ子タイム</b> 読書や算数ドリルなどの時間を通して、規則正しい朝の時間を送ることができるようになったか。	A	全校一斉の取組により落ち着いた時間を過ごすようにする。PTAの読み聞かせもお願いしていく。また、学力テストの結果からも算数ドリルの時間は継続していく。	A	A
	<b>14 情報教育</b> ネットリテラシーの意識を高めていくことができたか。	A	ネットモラルが必要な時代であるので、情報教育の中でネットリテラシーの意識を高めていきたい。	A	A
	学校関係者 評価委員からの ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育におけるネットリテラシーはAI時代も考慮するとさらに意識を高めていく必要がある。</li> </ul>			